

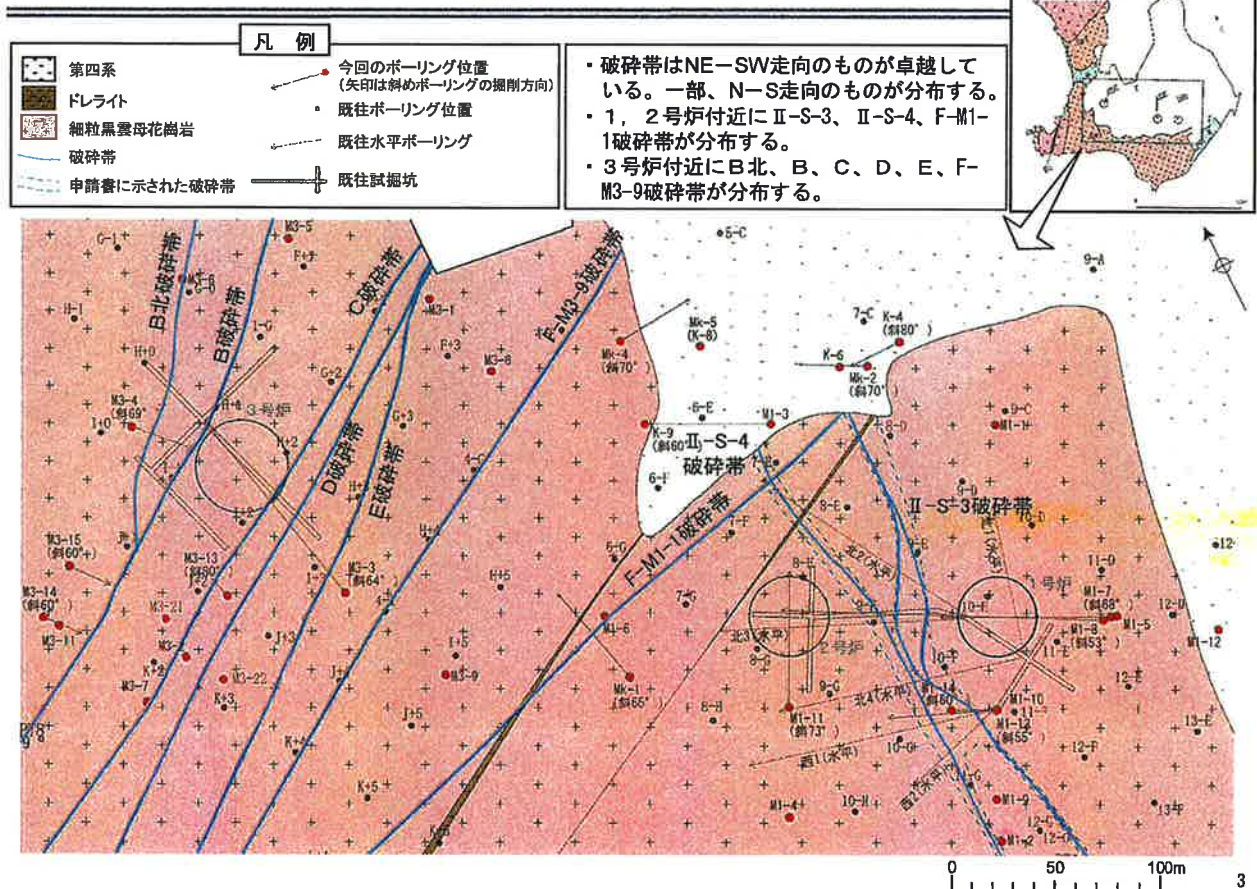
# 新耐震指針に照らした耐震安全性評価

美浜発電所、高浜発電所、大飯発電所 敷地の地質・地質構造  
【コメント回答】

平成22年7月28日  
関西電力株式会社

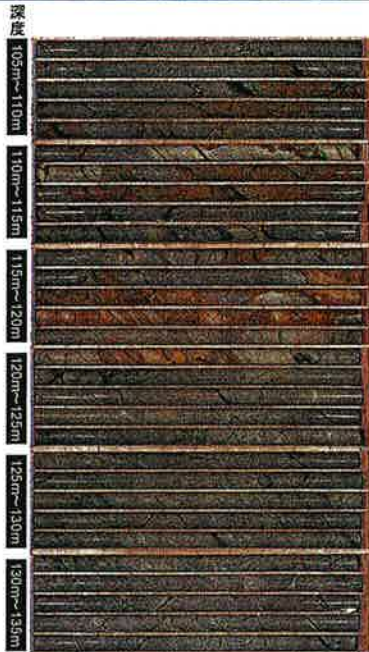
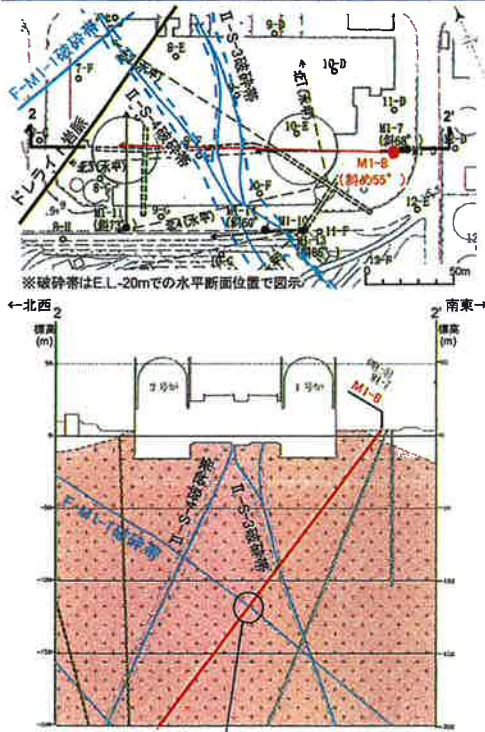
## 地質水平断面図 (E.L.-20m)

H22.4.28 合同C25-3を流用

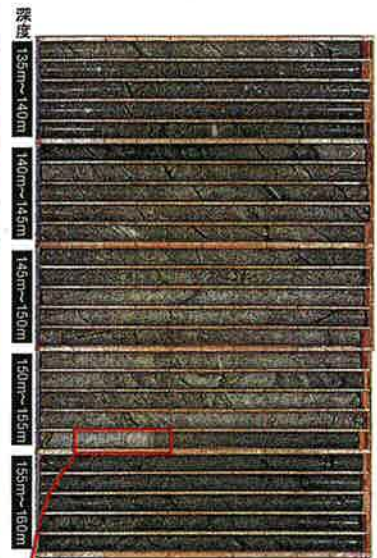


# 活動性の調査 (1, 2号炉側の破砕帯:F-M1-1破砕帯)

H22.4.28 合同C25-3を利用



M1-8ボーリング(135m~160m)



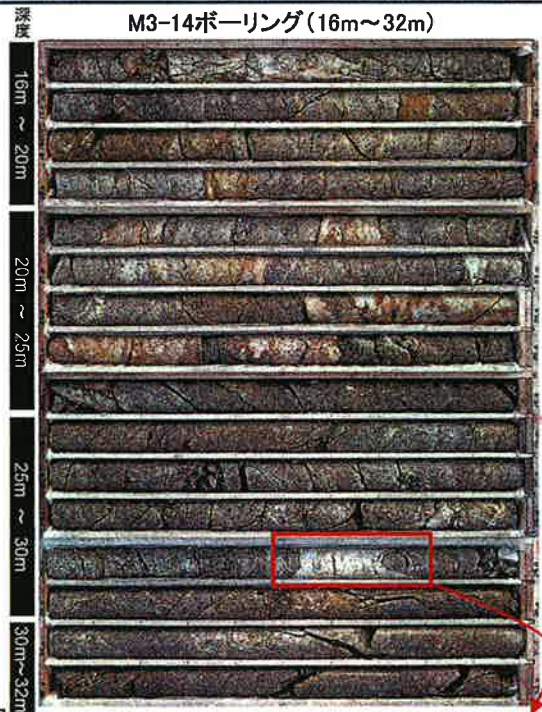
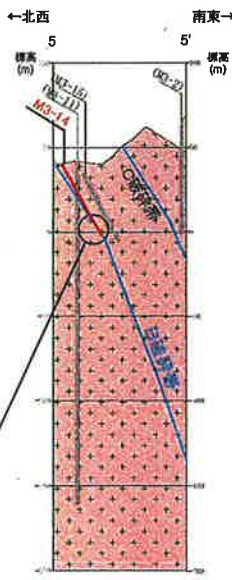
ボアホールテレビにより、N73° E/59° Sの破砕部(深度154.2m付近)を確認

粘土状破砕部における横ずれの変位センスの観察のため、水平方向の薄片を追加作成

# 活動性の調査 (3号炉側の破砕帯:B破砕帯)

H22.4.28 合同C25-3を利用

B破砕帯の南西方延長



M3-14ボーリング(16m~32m)



ボアホールテレビから、N32° E/45° Eの破砕部(深度29.6m付近)を確認  
走向・傾斜、出現深度からB破砕帯に相当するものと判断

粘土状破砕部における横ずれの変位センスの観察のため、水平方向の薄片を追加作成

## ま と め

### 【敷地の地形】

- ・変動地形・リニアメントは判読されない。

### 【敷地の地質・地質構造】

- ・古第三紀～白亜紀後期の江若花崗岩と中新世に貫入したドレライト及びそれらを覆う第四系からなる。
- ・江若花崗岩中には破碎帯が認められ、破碎帯はN-S～NE-SW走向、高角度傾斜のものが卓越し、節理の卓越方向と調和的である。

### 【破碎帯の活動性】

破碎帯は、以下の状況から少なくとも後期更新世以降に活動したものではないと判断される。

- ・変動地形を示唆する地形は認められない。
- ・敷地に近い南方の海上音波探査結果において、活断層は認められない。
- ・ボーリング調査において確認した比較的規模の大きい破碎帯については、研磨片や薄片による微細構造の観察結果によれば、最新活動面で正断層センス・左横ずれセンスの変位が推定され、現在の広域応力場と調和的ではない。  
(一部、カタクレーサイトからなるものもあった。)
- ・破碎帯を横断して分布するドレライトの貫入岩脈がずらされていないと考えられる。
- ・はざとり調査・ピット調査により認められた破碎帯の性状からも最近の活動はないと判断される。